

6. 実践臨床心理学専攻

I	実践臨床心理学専攻の教育目的と特徴	6 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	6 - 4
	分析項目 I 教育活動の状況	6 - 4
	分析項目 II 教育成果の状況	6 - 17
III	「質の向上度」の分析	6 - 25

I 実践臨床心理学専攻の教育目的と特徴

1. こころの問題の複雑化・多様化に対応できる臨床心理学の高度専門職業人の輩出が社会的要請であることを踏まえ、様々な臨床心理現場との連携を深めつつ、種々の臨床心理現場に即応できる高度専門職業人を養成する。そのため、以下のような人材養成を目的としている（資料1）。

○資料1 人材育成の目的

- 医療、教育、福祉、司法・矯正など多岐にわたる臨床心理活動領域に即応することができる人材。
- 生涯発達における様々な心理的援助レベルに対応することができる人材。
- 個別・集団レベル、ネットワーク・システムレベルなどいろいろな心理援助の介入レベルで活躍することができる人材。
- 地域及び他分野に根ざしたコラボレーションを行うことができる人材。

2. 本専攻では、この目的を達成するため、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを設定しており、3ポリシーのもと、心理系学部卒業生に限定せず、一定の臨床心理学的実務経験を有する社会人や、一定の心理学的素養を持つ他学部の卒業生、外国人留学生も積極的に受け入れている。
3. 専門職学位については、必修科目（臨床心理学基幹科目群 16 単位、臨床心理学展開科目群 18 単位）34 単位、当該専攻に関わる授業科目について選択科目（臨床心理学基本科目群）10 単位以上、計 44 単位以上を修得した者に臨床心理修士（専門職）を授与している。修了生は、家庭裁判所調査官、地方公務員心理職、医療機関、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、障害児療育センターなど臨床心理専門職業に就職する他、同学府人間共生システム専攻博士後期課程に進学している。
4. 本専攻では、教育目標・教育目的をより高いレベルで達成することを目的に、
- 専攻内に FD 委員会を設置し、専任教員全員で毎月会議を開催し、カリキュラム・FD の在り方等について検討している。
 - 年度当初、年度末に院生のディベロップメント調査を実施し、教育内容の検討を行っている。
5. 臨床心理学専門職大学院である本専攻をはじめ、医学系学府医療経営・管理学専攻、経済学府産業マネジメント専攻、法科大学院の法務学府実務法学専攻という、多様性のある九州大学の専門職大学院の特徴を生かし、「専門職大学院コンソーシアム」を立ち上げ、相互履修制度、市民講座であるレクチャーシリーズの共催等を行うなど、重層的なネットワークの構築と社会貢献に取り組んでいる。
6. 平成 18 年 11 月、昨今の多種多様な社会の臨床心理分野に関するニーズに応え、本学で集積してきた「臨床心理学の知見と専門性」を社会、地域住民に貢献することを目的に「NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室」を設立した。学生の実習教育の場として連携を図り、研修会の実施など社会貢献に取り組んでいる。
7. 東日本大震災により、被災地から福岡へ避難して来られた方々を対象に、平成 23 年 4 月に「ほっとひろば九大」を立ち上げた。この活動では、こころの回復・日常の生活を取り戻すことを援助し、また被災者同士の交流の場となることを目的とした活動であり、平成 24 年度からは、個別相談を行っている。全教員と大学院生が参加し、大学院生にとっては、このような未曾有の災害時の支援の在り方について考える貴重な体験となっ

ている。

8. これらの取組により、本専攻の教育目的は実現されているが、今後も引き続き専門的
教育の推進や学生評価・修了生評価のフィードバック等を通して教育の質の改善・向上
を図っていく。

以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「教育においては、確かな学問体系に立脚し、学際的な新たな学問領域を重視しながら、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材を育成する。」を踏まえている。

[想定する関係者とその期待]

在校生・受験生及びその家族、修了生、修了生の雇用者、教育・福祉・医療など多岐にわたる臨床心理活動領域関係者、地域社会等から、高度専門職業人としての臨床心理士の養成を期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 1-1 教育実施体制

(観点に係る状況)

1-1-1 (1) 組織編成上の工夫

1-1-1 (1) -① 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

担当教員配置状況を資料 2、組織編成に関する特徴とその効果を資料 3 に示す。

専任教員 8 名中 7 名が臨床心理士有資格者であり、そのうち 1 名が精神科の医師である。実務家教員 5 名の専門領域は、医療・保健領域 1 名、福祉領域 1 名、教育領域 3 名であり、長年の実務経験に基づいた授業を多方面から提供している。また、研究家教員と実務家教員をバランスよく配置し、知識を得る講義・演習と学内・学外実習の両面を指導できる体制を整えている。

専任教員 1 名当たりの学生数は 5.4 名で、教育課程の遂行に必要な教員を十分確保している。

○資料 2 担当教員配置状況 (平成 27 年 5 月 1 日現在)

専任教員				非常勤講師	学生数	教員一人当たり学生数
教授	准教授	講師	助教			
7 (5) 【6】	1 【1】	0	0	2 【1】	43	5.4
※ () 内は実務家教員数で内数。						
※ 【 】 内は臨床心理士有資格者で内数。						

○資料 3 組織編成に関する特徴とその効果

- 研究家教員と実務家教員をバランスよく配置している。
 - (効果) 知識を得る講義・演習と学内・学外実習の両面を指導できる体制にあり、即戦力となる高度専門職業人養成に寄与している。
- 専任教員 8 名中 7 名が臨床心理士資格有資格者であり、そのうち 1 名が精神科の医師である。
 - (効果) ケースカンファレンス等において適切な指導を行うことができる。
- 実務家教員の専門分野は、医療・保健、福祉、教育である。
 - (効果) 各分野の臨床現場と連携して豊富な学外実習先を確保し、様々な臨床心理現場に対応できる高度専門職業人養成に寄与している。

1-1-1 (1) -② 多様な教員の確保の状況とその効果

教員の確保の取組については、公募により、教育目的の達成及びカリキュラム・ポリシーにも配慮し、より高度で、かつ豊富な知識や技法を身につけるための講義や演習を担当する教員や、学内・学外実習において現場に応じた細やかな指導ができる様々な分野の実務経験を有する教員の確保に努めている。

また、男女の構成比率に配慮し、女性教員は 3 名であり、人間環境学府附属総合臨床心理センターに外国人客員教授を招聘し授業に参加してもらう等、多様な教員の確保に努めている (資料 4、5)。

○資料 4 専任教員に占める女性教員 (平成 27 年 5 月 1 日現在)

専任教員数		専任教員に占める女性教員の割合 (%)
男性教員数	女性教員数	
5	3	37.5%

○資料5 多様な教員の確保の取組

取組	内容
総合臨床心理センター 外国人客員教授の招聘	平成22年度から平成26年度に、総合臨床心理センター外国人客員教授として、韓国公州大学校特殊教育大学院から教授2名、アメリカ合衆国ノースカロライナ大学名誉教授1名、インド・防衛省心理学研究所長を招聘し、主に脳性マヒ児のための心理学的リハビリテーション技法に関する研究及び発達障害児のための集団心理療法に関する教育を実施した。

1-1-(1)-③ 入学者選抜方法の工夫とその効果

1) アドミッション・ポリシー

教育目的を達成するために、入学者選抜に関して、資料6のとおりアドミッション・ポリシーを定め、広く一般に公表している。

○資料6 アドミッション・ポリシー

様々な臨床心理現場との連携を深めつつ、種々の臨床心理現場に即応できるハイクオリティの臨床心理士を志す学生を求めている。
WebサイトURL: <https://www.kyushu-u.ac.jp/education/index.php>

2) 入学者選抜方法・実施の状況

本専攻では、本専攻の教育理念・目的に共感する学生を公平性、開放性、多様性を重視する観点に立って選抜しており、心理系学部卒業生に限定せず、一定の臨床心理学的実務経験を持つ社会人や、一定の心理学的素養を持つ他学部の卒業生も広く募っている（資料7、8）。

○資料7 特色ある学生の受入方法

- 平成25年度から、入試を夏季と冬季の2回実施している。夏季、冬季共に専門科目の筆記試験と口述試験を行っている。
- 夏季入試の口述試験においては、知識だけでなく、現代社会の臨床心理学的課題を自ら発見し、解決する能力を評価するために、課題解決問題を導入している。また、臨床心理士として求められる判断力、思考力、分析力、表現力等の人間関係能力の素養の適否について評価するため、3名以上の教員による面接を行っている。
- TOEIC又はTOEFLを利用して、英語の成績評価を行っている。

○資料8 留学生・社会人学生のための入学者選抜方法の例

対象	実施内容
留学生対象	外国人留学生特別選抜試験による入試を実施している。
社会人対象	社会人特別選抜出願資格は、募集要項に示すとおり、大学等卒業後3年以上の心理臨床に携わる社会人（在職可）、もしくは、医療・保健、福祉、教育、司法・矯正、看護の専門的業務に3年以上従事した経験を有する者とし、心理臨床の多様な領域から受け入れている。
外国人留学生特別選抜試験及び社会人特別選抜試験	筆記試験（外国語：TOEIC又はTOEFL及び専門科目）と口述試験によって行っている。特に、口述試験においては、教員全員で面接を行い、アドミッション・ポリシーに掲げる「期待する資質」や心理学的素養について諮問を行っている。また、留学生については、口述試験において日本語によるコミュニケーション能力についても審査している。

3) 学生定員の状況

学生定員並びに現員は、本専攻開設当初（平成17年度）から、平成25年度までは定員充足率は90%以上を保っていたが、平成26年度は78.3%と減少した。これは、志願者数は定員を上回っていたが、アドミッション・ポリシーに照らして、質の担保に重点をおいて選抜した結果である（資料9、10）。

○資料 9 在籍学生数

平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
定員	現員	充足率	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率
60	60	100.0	60	61	101.7	60	57	95.0	60	55	91.7	60	47	78.3	60	43	71.7

○資料 10 年度ごとの出願者数

試験実施年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
出願者数	71	57	57	57	62

4) 入試方法等に関する検討課題と改善の具体例

定員充足率の低下という課題については、それまで年 1 回の実施だった入試を平成 25 年度入試から夏季と冬季の年 2 回実施している。また、平成 26 年度に関東・関西地区で行われる臨床心理学系大学院合同説明会に積極的に参加する等の取組を行った結果、出願者数の減少に一定の歯止めがかかった（資料 11）。

○資料 11 入試方法等に関する検討課題と改善の具体例

検討課題	改善事例
受験者数が平成 23 年度から減少傾向にあり、質の確保を図りつつ受験者数を確保していくこと。	○平成 25 年度入試から、入試を夏季と冬季の年 2 回実施し、受験の機会を増やした。 ○関東・関西地区で行われる臨床心理学系大学院合同説明会等に参加し、受験希望者と直接面談し、広報活動に努めた。 ○平成 26 年度から、学生募集ポスターを Web サイト上に公開し、広く学生の目に触れるようにした。
入学者選抜に当たり、多様な経験を有する者を入学させる高度専門職業人としての臨床心理士に求められる基本的素養である「対人関係能力」の素養を入学選抜において見極めること。	アドミッション・ポリシーを明確化して公表する。
社会人入試において様々な実務経験及び社会経験等を適切に評価すること。	口述試験において全教員が合同で面接を実施することにより、素養を見極めるように努めた。
英語に関する成績評価について	TOEIC 又は TOEFL を活用することにより、外部基準を利用したより客観性の高い評価を行うことができた。

1-1-(2) 内部質保証システムの機能による教育の質の改善・向上

1-1-(2)-① 教員の教育力向上のための体制の整備とその効果

教育上の課題は、毎月開催している専攻の教員全員が参加する教員会議及び FD 委員会で検討している。FD には、学生の授業評価結果のフィードバックも含まれており、教育の質の向上や授業改善に活用されている。具体的には、事例研究論文指導演習において、学生の発言が少ないことについて FD で検討し、少人数のグループに分け、バズセッションの時間を設けることにより、学生の発言が増え、議論が活発化したという改善事例がある（資料 12）。

○資料 12 FD の実施状況

年度	開催数	主なテーマ
平成 22 年度	10	・学外実習授業の実施計画に関する／学内実習に関する FD ・入試方法の改善に関する FD ・学生の修学・生活状況に関する FD

九州大学実践臨床心理学専攻 分析項目 I

		<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア実習の状況に関する FD ・後期授業開始後の学生の修学状況に関する FD ・学内学外実習での教育方法と効果に関する FD ・倫理問題の指導に関する FD、倫理委員会の検討 ・ディベロップメント調査及び次年度オリエンテーションの実施計画の検討 ・NPO 法人こころとそだちの相談室における学生の実務研修計画 ・次年度の学外実習授業の実施計画に関する FD
平成 23 年度	11	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習授業の実施計画に関する / 学内実習に関する FD ・入試方法の改善に関する FD ・事例研究論文の作成に向けた教育指導に関する FD ・学生の修学・生活状況に関する FD ・学生のボランティア実習の状況に関する FD ・後期授業開始後の学生の修学状況に関する FD ・学内学外実習での教育方法と効果に関する FD ・倫理問題の指導に関する FD、倫理委員会の検討 ・ディベロップメント調査及び次年度オリエンテーションの実施計画の検討 ・NPO 法人こころとそだちの相談室における学生の実務研修計画 ・次年度の学外実習授業の実施計画に関する FD
平成 24 年度	10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学内・学外実習状況に関する FD ・事例研究・調査研究の方法についての FD ・入学後の学生の修学状況及び学内実習機関（心理教育相談室）での実習状況に関する FD ・学生による授業評価アンケートの結果に関する FD ・学生の専門職課程修了後の進路希望の把握について ・事例研究論文作成のための教育方法に関する FD ・事例研究発表会の方法についての検討 ・臨床心理同窓会を核にしたネットワークづくりの検討 ・学生による授業評価アンケートの実施方法の検討 ・専門職課程修了予定者の進路決定状況の調査結果に関する FD
平成 25 年度	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベロップメント調査結果と教育カリキュラム見直しに関する FD ・学内実習・スーパーヴァイザーの教育方法に関する FD ・学内実習施設におけるケース担当状況に関する FD ・NPO 法人こだちにおける研修状況（陪席）に関する FD ・授業科目の修学状況と教育方法に関する FD ・学生による授業評価アンケートの項目に関する検討 ・中間発表会の効果についての検討 ・学内実習施設の運営状況と外部実習評価に関する FD ・専門職課程修了者（8 期生）の臨床心理士試験結果の検討 ・入試方法・授業科目の成績評価基準に関する FD
平成 26 年度	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベロップメント調査結果と教育カリキュラム見直しに関する FD ・学内実習・スーパーヴァイザーの教育方法に関する FD ・学内実習施設におけるケース担当状況に関する FD ・NPO 法人こだちにおける研修状況（陪席）に関する FD ・授業科目の修学状況と教育方法に関する FD ・学生による授業評価アンケートの項目に関する検討 ・中間発表会の効果についての検討 ・学内実習施設の運営状況と外部実習評価に関する FD ・専門職課程修了者（8 期生）の臨床心理士試験結果の検討 ・入試方法・授業科目の成績評価基準に関する FD
平成 27 年度	11	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理面接・質問紙調査法の基本に関する FD ・ディベロップメント調査結果と教育カリキュラム見直しに関する FD ・学内実習・スーパーヴァイザーの教育方法に関する FD ・学内実習施設におけるケース担当状況に関する FD ・NPO 法人こだちにおける研修状況（陪席）に関する FD ・授業科目の修学状況と教育方法に関する FD ・学生による授業評価アンケートの項目に関する検討 ・中間発表会の効果についての検討 ・学内実習施設の運営状況と外部実習評価に関する FD ・専門職課程修了者（8 期生）の臨床心理士試験結果の検討 ・入試方法・授業科目の成績評価基準に関する FD

1-1-(2)-② 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

人間環境学府 FD 委員会による授業評価アンケートや本専攻独自のディベロップメント調査、全学共通フォーマットによる Web アンケート調査の結果を踏まえ授業改善を行っている。学外からの評価については、学外実習担当者から、学生一人一人に対して評価表を作成してもらい、学生へのフィードバックや実習指導の改善に役立てている（資料 13）。

○資料 13 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫

教育プログラムの質保証・質向上のための取組	具体例
学生からの意見聴取の取組 (授業評価、授業評価以外の意見聴取、評価結果のフィードバック)	<ul style="list-style-type: none"> ○本専攻が所属する人間環境学府 FD 委員会の下で、半期ごとに授業評価アンケートを実施しており、その結果を学府の FD セミナーで年 1 回公表し問題点を共有している。また、各科目の評価結果についても担当教員にフィードバックされている。授業評価アンケートには自由記述欄があり、定性的な視点での把握にも努めている。 ○本専攻においては、学生の学業の進展状況の調査やカリキュラム等への満足度等を把握するために、全学生を対象に入学時、進級時、修了時にディベロップメント調査を行い、教育の成果の確認や教育改善のためのデータとして活用している。 ○平成 25 年度、平成 27 年度に能力や知識の向上度、大学における教育課程・経験等についての満足度等について問う全学共通フォーマットによる Web アンケート調査を実施した。
学外関係者からの意見聴取の取組(フィードバック体制を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○学外実習に際しては、全ての学生について、実習の態度等についての学外実習先の担当者による評価を行い、学生にフィードバックしている。 ○平成 25 年度に学外実習先に対するアンケート調査を行い、28 機関中 19 機関から回答を得た。その結果、実習態度については、医療・福祉・教育のいずれの領域においても、4 件法で 3.3～3.4 点の高い評価を得ている。 ○学外実習先に実習担当の実務家教員が赴き、実習前の大学での指導内容の検討・確認、また、大学側から実習先への実習内容についての要望などを実習先の担当者と意見交換し、より良い実習のあり方に役立っている。
外部評価制度の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○臨床心理分野専門職大学院平成 26 年度認証評価の結果、「改善が望ましい点」として、「学内実習の指導、特にスーパーヴィジョンについて、授業評価に関わらない外部の専門家に委託する際の学生の経済的負担を軽減できるよう検討が望まれる。」との指摘を受け、学生への経済的援助の方法について、現在、大学経理と検討している。
自己点検・評価の活動状況と改善例	<ul style="list-style-type: none"> ○本専攻における評価結果を質の向上や改善に結びつける取組の実施組織、責任体制等は、人間環境学府内の合同運営委員会、将来構想検討委員会、評価委員会並びに教授会である。 ○文理融合型学際教育をさらに進めるために、九州大学が実施している教育の質向上支援プログラムを利用し、平成 22 年度から専攻の異なる教員が特定のテーマで学際的な教育・研究を行う学府主体の多分野連携プログラムに本専攻も参加している。さらに、平成 24 年度からは、この多分野連携プログラムに学生が参加することで、授業科目「学際連携研究法」の単位を履修できるようにしており、学際教育の実質化が進んでいる。
全学的な教育活動の改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト (P&P) (大学として一定の期間、研究費等の重点配分を行い、本学の教育と研究の一層の発展を図ることを目的とするプロジェクト) <p>採択年度：平成 22 年度 研究代表者：本専攻教員 取組課題：NPO 法人との連携による心理臨床人材育成システムの構築</p>

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

教育課程の遂行に必要な教員数が配置され、種々の臨床心理現場に即応できる臨床心理分野の高度専門職業人を養成するという教育目的の達成に十分な体制であり、教育組織は適切に編成されている。

専攻における教員会議も毎月開催され、FD委員会等で教育内容、教育方法の改善に向けた取組を行い、効果を上げている。

以上の取組や活動、成果の状況は良好で、本専攻で想定する関係者の期待に応じていると判断される。

観点 1-2 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1-2-(1) 体系的な教育課程の編成状況

1-2-(1)-① 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

養成する人材像と学問分野・職業分野の特徴を踏まえて教育目的を前提に三つのポリシーの整合性に留意して、カリキュラム・ポリシーを定め、一般に公開している。カリキュラム・ポリシー策定の際には、臨床心理現場でリーダー的立場となり得る高度専門職業人養成のために、理論と実習のバランスを考慮したカリキュラム編成を行った (資料 14)。

また、教育目的とカリキュラム・ポリシーの関係において特筆すべき事項は、種々の臨床心理現場に対応できるよう臨床心理の 3 大領域での十分な実習に加え、司法・矯正領域、産業領域等の授業科目も開講している。本専攻のカリキュラムを取得することにより、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士資格試験の受験資格となるとともに、論文試験の免除が得られるという特色がある (資料 15)。

○資料 14 カリキュラム・ポリシー

臨床心理学における高度専門職業人の養成のために、理論学習が中心となる講義・演習と経験学習が中心となる実習のバランスを考慮した科目が設定されている。特に学内附属施設及び心理臨床の 3 大領域である医療・教育・福祉領域における学外施設での実習など実践的な教育を展開している。また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士資格試験において、受験資格となると共に論文試験の免除が得られるカリキュラムとなっている。

Web サイト URL: <https://www.kyushu-u.ac.jp/education/index.php>

○資料 15 教育目的とカリキュラム・ポリシーの関係において特筆すべき事項

様々な臨床心理分野との連携を深めつつ種々の現場に即応し、リーダーシップを発揮できる高度専門職業人養成という教育目的達成のため、理論学習と共に体験学習である実習とのバランスを考慮したカリキュラムを編成している。特に、学内実習施設において実際に心理援助活動を行うと共に、学外実習においては 3 大領域である医療、福祉、教育領域での十分な実習に加え、司法・矯正領域、産業・組織領域の科目も開講し、幅広く学べる編成となっている。

1-2-(1)-② 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

教育目的を前提に三つのポリシーの整合性に留意して、ディプロマ・ポリシーを定め、一般に公開している。

また、教育目的とディプロマ・ポリシーの関係において特筆すべき事項は、「知識・理解」、「技能」、「態度・指向性」の 3 側面について細やかな到達目標を設定していることである (資料 16)。

○資料 16 ディプロマ・ポリシー

○プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。

- ・医療、教育、福祉、司法・矯正など多岐にわたる臨床心理活動領域に即応することができる。
- ・生涯発達における様々な心理的レベルに対応することができる。
- ・個別・集団レベル、ネットワーク・システムレベルなどいろいろな心理援助の介入レベルで活躍することができる。
- ・地域及び多分野に根ざしたコラボレーションを行うことができる。

Web サイト URL: <https://www.kyushu-u.ac.jp/education/index.php>

○到達目標 Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles)

A 知識・理解 Knowledge and understanding

- ・代表的でかつ標準化された心理検査 (質問紙検査・知能検査・投射法検査) の背景となる理論や実

施方法を理解し説明できる。

- ・ 主要な心理療法、カウンセリング、遊戯療法等の理論と援助技法を理解し説明できる。
- ・ 地域援助に関わる理論と援助技法を理解し説明できる。
- ・ 臨床心理実践における調査研究、事例研究の研究手法を理解し説明できる。
- ・ 臨床心理実践において必要とされる倫理規定について理解し説明できる。

B 技能 Skills and other attributes

- ・ 臨床心理面接を通じてのアセスメントの基本を習得し実践できる。
- ・ 各種心理検査の実施に関する判断、施行、解釈、報告の基本を習得し実践できる。
- ・ 対象に応じた心理療法、カウンセリングなど心理的援助の基本を取得し実践できる。
- ・ 臨床心理実践現場に応じた臨床心理職としての他の専門職との連携の基本を習得し実践できる。

C 態度・志向性 Valuing and Quality of Mind

- ・ 臨床心理分野の高度専門職業人をを目指す明確な動機と意欲を持つこと。
- ・ 人間に対する深い関心と理解力を持つこと。
- ・ 柔軟で安定した対人関係能力を培うこと。
- ・ 人間環境に対して幅広い興味と洞察力を持って望むこと。
- ・ 社会人としての良識と対人援助を行う専門家としての倫理意識を持つこと。
- ・ こころの専門家として、社会の要請に応えるという高い意識を持つこと。

1-2-(1)-③ 教育課程の編成の状況

現代社会における心の問題の複雑化・多様化に対応できる高度の臨床心理学の知識と技術を持ったハイクオリティの臨床心理専門職業人を養成するために、様々な心理臨床分野におけるカリキュラムを編成している。理論学習が中心となる講義・演習と、経験学習が中心となる実習のバランスを考慮した科目が設定されており、臨床心理学基幹科目群と臨床心理学展開科目群合わせて 34 単位を必修とし、選択科目 10 単位を合わせて修了に必要な 44 単位以上を取得することになっている（資料 17）。

○資料 17 科目構成と必要単位数

履修区分	科目群	授業科目名	単位
必修	臨床心理学基幹科目群	臨床心理学原論演習ⅠⅡ 臨床心理査定学演習ⅠⅡ 臨床心理査定学実習ⅠⅡ 臨床心理面接学演習ⅠⅡ 臨床心理面接学実習ⅠⅡ	16 単位以上
	臨床心理学展開科目群	臨床心理地域援助学演習ⅠⅡ 臨床心理地域援助額実習ⅠⅡⅢ 臨床心理事例研究演習ⅠⅡ 総合事例研究演習ⅠⅡ	18 単位以上
	小計		34 単位以上
選択	臨床心理学基本科目群	カウンセリング特論 臨床アクションメソッド特論 障害臨床心理学特論 人格心理学特論 学生相談特論 臨床心理学実践研究法特論 児童・青年期臨床心理学特論 集団臨床心理学特論 教育臨床心理学特論 家族臨床心理学特論 投映法特論 治療構造論 関係論的心理療法学 高齢者臨床心理学特論 臨床心理関連行政論 医療臨床心理学特論	10 単位以上

九州大学実践臨床心理学専攻 分析項目 I

	福祉臨床心理学特論 スクールカウンセリング特論 乳幼児臨床心理学特論 生涯発達学特論 健康支援学特論 対人関係論 自己過程心理学 認知発達理論 認知行動論 臨床精神医学特論 臨床精神薬理学特論 地域看護学特論 司法・矯正臨床心理学特論 産業・組織臨床心理学特論	
計		44 単位以上

1-2-(1)-④ 授業内容及び授業時間割

授業内容及び授業時間割の特徴は、総合臨床心理センターでの相談業務を通して、実際に経験したことを事例としてレポートにして理論化する等、実習と演習を有機的に組み合わせている（資料 18）。

○資料 18 授業内容及び授業時間割の特徴

理論学習が中心となる講義・演習と、経験学習が中心となる実習のバランスを考慮した科目が設定されており、特に学内附属施設である総合臨床心理センターでは、心理教育相談部門、子ども発達相談部門、生涯発達相談部門を設け、不登校をはじめ様々な心の相談や発達障害など、子どもの心身の発達の相談援助活動を実施し、学生の実習の場としている。それらの実習の体験を面接学演習などにおいてケース事例としてレポートし、実習と演習を有機的に組み合わせ、体験を理論化し、学習効果を上げている。また、臨床心理地域援助学実習では、心理臨床の 3 大領域である医療・保健、福祉、教育領域を全て体験できるよう学外実習施設の確保を行うなど、実践的な教育を展開している。

1-2-(2) 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

心理臨床活動等の様々な機会に、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等の把握に務め、それらに応じた教育課程の編成または授業科目の内容を整備している。特に、臨床心理地域援助学実習では、半期ごとに医療・保健、福祉、教育の心理臨床現場に週 1 日の実習を行う中で、実習現場との事前の打ち合わせ、実習中の日誌による報告、実習先からの評価等も行っており、現場の要請にも応じられるような実践的な教育となっている。また、総合臨床心理センターでは、不登校、いじめ、発達障害をはじめ、子どもから大人までの様々な心の問題を持つクライアントを実際に担当し、心理援助を行っている。これは学生にとっては実習体験の場となり、かつ地域社会のニーズに応えた臨床心理学的援助活動にもなっている（資料 19）。

○資料 19 学生のニーズ等に応じた教育課程の編成の具体例

事項	具体例
授業科目への学術の発展動向の反映	心理相談や発達相談での事例の知見を反映させる形で実践臨床心理学の授業を行っている。
当該職業分野に関する実践的内容の反映	○医療・保健、福祉・教育分野での実務経験を持つ実務家教員により、各現場での実習や演習が行われている。 ○医療・保健、福祉・教育領域における多様な現場での臨床心理地域援助学実習において単位認定が行われている。 ○総合臨床心理センターにおいて、実際に心の問題を抱えるクライアントを担当し、心理援助を行っている。これは、実習体験の場であると共に、地域援

	助活動となっている。
その他特筆すべき事項	○本学で設置されている専門職大学院でコンソーシアムを組織し、相互履修制度を行っている。本専攻では、「産業・組織臨床心理学特論」、「司法矯正臨床心理学特論」の授業科目を提供している。 ○長期履修制度の設置により、社会人学生などの履修への配慮を行っている。

1-2-(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

留学生を積極的に受け入れ、適切な指導を行っている。また、毎年、韓国公州大学校との学術交流会を行ったり、総合臨床心理センターに外国人客員教授を招聘し、毎週行うカンファレンスにおいて、学生の指導・教育を行う等、国際通用性のある教育を実施している（資料 20）。

○資料 20 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

- 公州大学校特殊教育大学院との交流（年 1 回程度）
公州大学校、本学双方において、特別支援教育に関する研究発表及び討論を行い、比較教育的観点からの学術交流を行った。
- 平成 23 年度 公州大学校から教員 4 名、学生 20 名が本学を来訪し、学術交流を実施した。
 - 平成 24 年度 本学から教員 3 名、学生 10 名が公州大学校を訪問し、学術交流を実施した。
 - 平成 25 年度 公州大学校から教員 4 名、学生 20 名が本学を来訪し、学術交流を実施した。
 - 平成 26 年度 本学から教員 2 名、学術研究員 2 名、学生 17 名が公州大学校を訪問し、学術交流を実施した。
- 総合臨床心理センター 外国人客員研究員の招聘
平成 22 年度から平成 26 年度に、総合臨床心理センター外国人客員教授として、韓国公州大学校特殊教育大学院から教授 2 名、アメリカ合衆国ノースカロライナ大学名誉教授 1 名、インド・防衛省心理学研究所長を招聘し、主に脳性マヒ児のための心理学的リハビリテーション技法に関する指導及び発達障害児のための集団心理療法に関する教育を実施した。毎回の出席者数は 100 名程度であった。

1-2-(4) 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

1-2-(4)-① 指導体制

「九州大学大学院人間環境学府専門職学位課程（実践臨床心理学専攻）学生指導内規」を定め、1 名の主指導教員と 1 名の副指導教員をおき、臨床実習の指導及び事例研究論文の作成指導にあたっている。

1-2-(4)-② 授業形態

授業形態及びその特色については、臨床心理学基幹科目群、臨床心理学展開科目群は全て演習科目、実習科目であり、理論学習したことを演習形式で体験化し、さらに総合臨床心理センターにおける実習や学外の心理臨床現場におけるフィールドワークで体験し、その後それらを理論化してカンファレンス等で発表し指導を受けることで、体験したことが臨床力として定着するよう工夫している（資料 17（11～12 頁）、資料 21、22）。

○資料 21 授業形態の特色

- (1) 主要講義科目 30 講座（選択科目）
臨床心理学における専門教育科目として専門性の高いテーマに対する基礎的な知識と考え方を教授する講義形式の科目である。臨床心理学基本科目群として位置付けている。
- (2) 主要演習科目 12 講座（全て必修科目）
講義科目に対応して専門教育科目として具体的な課題に対して学生が取り組む演習科目を用意して

九州大学実践臨床心理学専攻 分析項目 I

いる。必修科目である臨床心理学基幹科目群、臨床心理学展開科目群としており、それぞれ6講座ずつ計12講座開講している。

(3) 実習科目 7講座(全て必修科目)

フィールドワークを含む実習科目である。

臨床心理学基幹科目群として、臨床心理査定学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学面接法実習Ⅰ・Ⅱを実施し、臨床心理学展開科目群として臨床心理地域援助学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなど実践的な教育を実施している。

(4) 事例研究論文

修士論文を課さないが、臨床実践の事例研究論文の作成指導を行っている。

○資料22 特徴的な演習・実習科目の例

科目	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理地域援助学実習Ⅰ (医療・保健領域) ・臨床心理地域援助学実習Ⅱ (教育領域) ・臨床心理地域援助学実習Ⅲ (福祉領域) 	<p>最初にオリエンテーションを行い、臨床現場の施設見学5か所(医療・保健1か所、教育1か所、福祉3か所)を2日間に分けて行い、その後、半期ずつ各領域の現場臨床実習を行う。</p> <p>臨床実習は、各機関に1～2人ずつの少人数で週1日半期ずつ3領域に渡り実施する。事前オリエンテーション、中間シェアリング・総括シェアリングを行い、レポートを提出することにより、実習体験を理論的にも深める。</p> <p>また、学生が実習先への挨拶、実習先指導者との実習打合せ、計画書の作成等社会的な渉外実践も行えるよう指導している。実習日誌への指導担当者からのコメントなど、実習先の表かもフィードバックし、実習体験の効果を上げるようにしている。</p>
治療構造論	<p>講義内での演習</p> <p>診断の見立てをするインタビュー(初回面接)を想定したロールプレイングシミュレーションを実施している。学生は面接者、相談者、陪席者、観察者(ビデオ撮影)の4人1組となって模擬面接を実施し、その後シェアリングを行う。逐語録、ビデオ、シェアリングをもとにレポートを作成する。面接者役の学生は相談者に対する自分の表情や態度について、教員のコメント等も参考にしながら的確に学ぶことができる。また、相談者役など他の役も体験することでさらに面接スキルを高めることができる。</p>

教育効果を高めるために少人数で討論を行い、対話型の授業を行っている(資料23)。

○資料23 教育効果を高めるための工夫の具体例

形態	具体的内容
少人数授業	事例を発表するカンファレンスでは、同時間帯に3室開設して行い、少人数で行っている。
対話・討論型授業	論文指導演習の授業において、小グループに分かれ、各グループでバズセッションを行い、その後全体討論を行っている。
事例研究型授業	総合臨床心理センターにて担当した事例について少人数のグループで事例発表を行い、学生同士のディスカッション及び教員がコメントを行っている。
フィールド型授業	医療・保健、福祉・教育領域の学外実習施設において各現場の指導者の下で実習を行い、そのことについて実習前・中間・実習後に学内でシェアリングを行う。
その他特色ある取組	総合臨床心理センターにて実際にクライアントを担当し、カウンセリングを行う。

1-2-(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

学生の主体的な学習の促進等の工夫は、大学全体の中期計画において、アクティブ・ラーニングの推進を規定していることに対応するために、積極的に実施している。特に、教員主催の研究会が13、学生主催の研究会が7と臨床心理学系の様々な研究会が開催されており、学生が主体的に学ぶ場となっている（資料24、25）。

○資料24 学生の主体的な学習の促進等の工夫の具体例

事項	具体的内容
学生の主体的な学習を促すための組織的な履修指導	○学生の自主的な学習を促し、授業時間外の学習時間を確保するため、各授業において随時レポートや宿題を課して、個人の学習を促している。 ○教員主催の研究会が13、学生主催の研究会が7と臨床心理学系の様々な研究会を開催し、学生が主体的に学ぶ場となっている。
シラバスを利用した準備学習の指示	シラバスにおいても、レポート等を課してそれを成績に反映させている科目においてはその旨を記載するとともに、オフィスアワーや電子メール等による授業内容等に関する質問・相談についての対応方法を開示している。
その他特色ある取組	○2年生による研究室紹介など学生主体による入学オリエンテーションを実施している。 ○入学時、進級時等のディベロップメント調査の実施により、学生が自らの修業状況が把握できるようにし、主体的な学習を促すとともに指導にフィードバックしている。

○資料25 臨床心理学に関する学内研究会
(教員主催：13)

名称	開催年度、頻度	参加人数	取組内容
M20 研究会	H22 年度～、週1回	20～25	事例検討、アセスメント・心理検査研修
教育臨床研究会	H22 年度～、月2回	6～9	教育領域におけるケースカンファレンス、学校臨床の研修
福祉臨床研究会	H22 年度～、月2回	6～9	福祉領域におけるカンファレンス・福祉臨床の研修
医療臨床研究会	H22 年度～、月2回	6～9	医療領域におけるカンファレンス・医療臨床・心理検査の研修
ポレポレ (居場所活動研究会)	H22 年度～、週1回 又は2週に1回	13	不登校などの子どもと院生が学内において一緒に2時間遊び、その後シェアリングを行い、指導を受ける。
学校臨床研究会	H17 年～、月2回	8	学校臨床の基本的理解、心理教育のリハースル、スクールメンタルサポーターのシェアリング
こども臨床研究会	H22 年度～、月3回	25	小児科医や児童虐待等の専門家を講師に招いての勉強会
メンタルフレンド研究会	H17 年～、月1回	6	不登校児童生徒の家庭訪問活動のスーパーヴィジョン
福岡精神分析セミナー	H22 年度～、月4～6回	10	精神分析学を専攻する医師、臨床心理士による海外文献の輪読、及びケース検討会
ぎんぎんグループ	H19 年度～、月2回	10	臨床動作法を用いた肢体不自由児者の保護者のためのグループ援助活動
福岡あゆみの会 月例訓練会	S54 年度～、月1回	10	臨床動作法を用いた肢体不自由児者のための動作訓練会
心理療法事例研究会	H22 年度～、2週に1回	15	事例検討
臨床心理学研究件等	H22 年度～、2週に1回	10	臨床心理の基礎研究に関する検討

(院生主催：7)

名称	開催年度、頻度	参加人数	取組内容
曜日チーム コンサルテーション	H22年度～、年4回	50～70	心理教育相談室の各曜日担当チームが心理支援職領域の専門家を招いての勉強会
イメージ研究会 (旧称：壺の会)	H22年度～、月1回	5～10	壺イメージ法の体験及び技法についての勉強会
こべん会	H22年度～、月1回	5～10	精神分析的アプローチによる子どもの心理療法のケースカンファレンス、専門書の抄読会
グルグル会	H22年度～、3ヶ月に1回	10～15	集団精神療法についてのケースカンファレンス及び技法の勉強会
催眠研	H22年度～H26年度まで、月1回	3～8	催眠について実習形式で催眠を体験する勉強会
むしかご	H22年度～H25年度まで、月1回	5～10	WISC を主とした子どもに対する心理検査の、検査結果の見方や伝え方を検討する
バリ研	H22年度～H25年度まで、月1回	10	緩和ケアに関わる勉強会

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

教育目的を達成するために、講義、演習、実習等の授業形態をバランス良く組み合わせ、講義と演習を有機的に連携させる等適切な学習指導の工夫をしている。特に学外実習においては、臨床心理の3大領域全てで半期ずつ実習を行い、学内実習では総合臨床心理センターにおいて発達障害や不登校等、様々なクライアントを担当して実践力を磨き、充実した実習体験を積み、それに対して経験豊富な実務家教員により細やかな指導を行っている。そのことにより実習先からも高い評価を得ており、種々の臨床現場に即応出来る人材の育成となっている。

また、教員・院生主催による種々の研究会の開催により、学生の主体的な学習を促し自身の専門性を深く理解する機会を提供し学生はその取組を高く評価している。

以上のことから、教育内容・方法に関して、想定する関係者の期待を上回ると判断される。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点2-1 学業の成果

(観点に係る状況)

2-1-1 在学中や卒業・修了時の状況

2-1-1-① 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

1) 単位修得状況

修了者の単位修得状況は、99%以上である。現代社会における心の問題の複雑化・多様化に対応できる高度の臨床心理学の知識と技術を持ったハイクオリティの臨床心理専門職業人を養成するカリキュラムを編成し、それらの科目をバランス良く取得して修了している(資料26)。

○資料26 平均単位修得率

平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学	平成25年度入学	平成26年度入学
99.5	99.8	99.9	99.9	100

備考：平成26年度までの学生の成績情報(学務情報システム)から次の定義で、各学生の単位取得率を算出。
 単位修得率 = (取得した単位数) / (履修登録した授業の総単位数) × 100 (値は%)
 さらに、学部及び大学院ごとに全学生の単位取得率の平均をとり、その値を平均単位取得率とした。
 平均単位修得率 = (全学生の単位取得率の総和) / (学生数)
 出典：学務情報システム

2) 標準修業年限内の修了率及び学位授与状況

修了者の標準修業年限内の修了率、「標準修業年限×1.5」年内終了率は、毎年100%であり、標準修業年限内の修了率が96%以上で、ほとんど全員が2年で修了しており学業の成果は高水準である(資料27、28)。

○資料27 標準修業年限内の修了率 (%)

専門職学位課程 (標準修業年限2年)	20年度入学 (21年度修了)	21年度入学 (22年度修了)	22年度入学 (23年度修了)	23年度入学 (24年度修了)	24年度入学 (25年度修了)	25年度入学 (26年度修了)
	100.0	96.6	96.8	96.6	100.0	100.0

定義：平成26年度までに標準修業年限内に卒業・修了した学生の学籍情報(学務情報システム)から以下の定義で算出。集計は入学した年度に遡って行い、入学者数を分母とした。
 標準修業年限内卒業修了率 = (標準修業年限修了者数) / (入学者数) × 100 (値は%)
 ただし、標準修業年限は、学士課程は4年(医歯薬は6年)、修士課程・博士前期は2年、博士後期課程は3年、博士課程は4年、博士一貫は5年、専門職学位課程は2年または3年である。値は%、小数点以下1桁。
 出典：学務情報システム

○資料28 「標準修業年限×1.5」年内修了率 (%)

専門職学位課程 (標準修業年限2年)	19年度入学	20年度入学	21年度入学	22年度入学	23年度入学	24年度入学	25年度入学
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

備考：平成26年度までに標準修業年限×1.5内に卒業・修了した学生の学籍情報(学務情報システム)から以下の定義で算出。集計は入学した年度に遡って行い、入学者数を分母とした。
 標準修業年限×1.5内卒業修了率 = (標準修業年限×1.5修了者数) / (入学者数) × 100 (値は%)
 ただし、標準修業年限×1.5は、学士課程は6年(医歯薬は9年)、修士課程・博士前期は3年、博士後期課程は4.5年(月に換算して算出)、博士課程は6年、博士一貫は7.5年(月に換算して算出)、専門職学位課程は3年または4.5年(月に換算して算出)である。値は%、小数点以下1桁。

出典：学務情報システム

3) 退学率

平成 22 年度から平成 26 年度までの卒業生の退学率は、0%である。

4) 学位授与状況

学生は概ね所定の年限内でカリキュラムに定められた単位を修得し、修了要件とされている事例研究論文をまとめ上げ、専門職大学院修了生として相応しい学力や能力を身につけて卒業している（資料 29）。

○資料 29 学位授与状況

学位の名称	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
臨床心理修士（専門職）	30	28	31	29	28	27

出典：九州大学概要 2009 年度版～2014 年度版、学務情報システム

2-1-(1)-② 資格取得状況、学外の語学等の試験の結果、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況

1) 資格取得の状況

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」資格試験の受験結果については、過去 4 年間の合格率の平均は 93.6%であり、全国平均に比べ非常に高い合格率を示し、臨床心理活動領域に即応できる人材を輩出している（資料 30）。

○資料 30 「臨床心理士」資格試験状況

年度	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
平成 22 年度修了生 (平成 23 年度受験)	29	27	93.1%	60.6%
平成 23 年度修了生 (平成 24 年度受験)	30	28	93.3%	59.1%
平成 24 年度修了生 (平成 25 年度受験)	25	25	100.0%	62.4%
平成 25 年度修了生 (平成 26 年度受験)	26	23	88.5%	60.4%

2) その他の学生の活動状況

事例研究論文については高い水準にあり、毎年、学府長賞・奨励賞を受賞している（資料 31）。

マスコミ等で取り上げられた活動実績は、東日本大震災で被災して福岡に来られた方々の心のケアを目的として、震災直後の平成 23 年 4 月から開始した「ほっとひろば 九大」の事例がある。学生と教員が協力して被災者の支援にあたり、このことは、種々の臨床心理現場に即応できる高度専門職業人の養成という教育目的達成に向けて、有意義な活動である（資料 31、32）。

○資料 31 事例研究論文の内容・水準の高さを示す資料

修士論文の質向上の一環として学府内に論文賞をおき、学生の研究意欲向上に努めている。

○平成 22 年度

自閉症児とのこだわり対象を介した vocal marker による関係性の形成（優秀賞）

○平成 23 年度

思春期発達障がい児の自己及び他者理解の援助に向けた心理劇、役割交換技法の適用（奨励賞）

- 平成 24 年度
独自のイメージ世界で他者と関わる自閉症児とのイメージ共有を目指したプレイセラピー（奨励賞）
- 平成 25 年度
自閉症スペクトラム障害における感覚過敏と不安との関連（奨励賞）
- 平成 26 年度
Breadth-Depth 好奇心尺度の作成と精神的健康度との関連（奨励賞）

○資料 32 「ほっとひろば九大」における学生の活動実績

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により被災して福岡に来られた方の心のケア活動。平成 23 年 4 月 23 日から活動を開始。専攻の全教員、在学生、修了生が支援にあたった。

○実施概要

- ・日時：毎週土曜日 10:30～12:00
- ・場所：九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター（和室）
- ・実施体制：担当教員（臨床心理士）2～3名、他4名（大学院生など）
※相談内容に応じて、個別（個室）面談も行った。
- ・電話受付・相談：平日（月～金）10:00～17:00、土 10:00～12:00

○参加状況

- ・平成 23 年度：延べ 121 名（実数 14 名）が参加し、延べ 27 回実施した。教員参加者は、延べ 45 名（実数 11 名）、大学院生・修了生等参加者は延べ 126 名（実数 68 名）。
- ・平成 24 年度：4 家族、10 名が参加し、延べ 54 回実施した。
- ・平成 25 年度：2 家族、4 名が参加し、延べ 83 回実施した。
- ・平成 26 年度：1 家族、2 名が参加し、延べ 24 回実施した。

○報道

- ・西日本新聞 「九州へ避難者を支援 九大に心のケア施設」（平成 23 年度）
- ・読売新聞 「心のケア 九大」（平成 23 年度）

2-1-(1)-③ 分析のまとめ

以上のように、平均単位修得状況は、99%以上、退学率は0%であり、在学中や修了時の状況は、総合的に見て良好である。これらのことから、各学年時において学生は学力を適切に身に付けていると判断される。学生は概ね所定の年限内でカリキュラムに定められた単位を修得し、修了要件とされている事例研究論文を纏め上げて専門職大学院修了生として相応しい学力や能力を身に付けて修了しており、期待される水準の教育の成果は上がっている。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」資格試験の受験結果は、全国平均に比べて非常に高い合格率を示し、臨床心理現場に即応できる高度専門職業人の養成という教育目的に相応しい学力や能力を身に付けて修了している。

上記の在学中や修了時の状況を踏まえて総合的に判断すると、学習成果が上がっていると評価できる。

2-1-(2) 在学中や卒業・修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果

2-1-(2)-① 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

1) 全学共通フォーマットによる Web アンケート調査

平成 27 年度に学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート調査を 1 年生及び 2 年生を対象に実施した。その結果、①専門分野に対する深い知識や関心、②記録・資料・報告書等の作成能力、③討論する能力、④他人に自分の意図を明確に伝える能力、⑤未知の問題に取り組む姿勢について、8 割を超える学生が入学時と比べて向上したと回答している。また、授業や少人数教育については、7 割を超える学生が満足であると回答している。これらのことから、学業の成果について、学生が達成度、満足度を得ていることが分かる（資料 33、34）。

○資料 33 能力や知識の向上度(全学共通フォーマットによる Web アンケート調査結果(平成 27 年度実施) より抜粋)

【2-1】以下に示す能力や知識について、あなたの能力が、九州大学の大学院に入学した時点と比べて、現在ではどれくらい向上したかお答えください。	全く変わらない	あまり変わらない	どちらとも言えない	少し向上している	多いに向上している	該当なし
①自分の専門分野に対する深い知識や関心	0	0	2	12	20	1
②記録・資料・報告書等の作成能力	0	1	3	17	14	0
③討論する能力	1	2	3	23	6	0
④他人に自分の意図を明確に伝える能力	1	1	3	18	12	0
⑤未知の問題に取り組む姿勢	1	1	4	21	8	0

○資料 34 大学における教育課程・経験等についての満足度

【問 3-2】大学における教育課程・経験等について、あなたにとっての満足度を次の番号のいずれかでお答えください。	不満である	どちらかといえば不満	どちらとも言えない	どちらかといえば満足	満足である	該当なし
授業	0	3	6	11	15	0
ゼミ (少人数教育)	0	2	6	13	14	0

2) 部局独自の学習の達成度・満足度に関するアンケート調査

学生の学業の進展状況の調査やカリキュラム等への満足度を把握するために、入学時、進級時、修了時にディベロップメント調査を行い、教育成果の確認や教育改善のためのデータとして活用している。カリキュラムと実習についての学生の満足度は高く、臨床心理の専門的技術である心理検査法や心理療法については、理解度、実践度ともに伸びている（資料 35～37）。

○資料 35 満足度 (7 件法)

	平成 24 年度修了生	平成 25 年度修了生
カリキュラムについての満足度	5.38	5.54
実習についての満足度	5.66	5.81

○資料 36 心理検査法の理解度・実践度 (平成 25 年度修了生) (25 心理検査法の 7 件法)

	入学時	修了時
心理検査法の理解度	2.72	3.90
心理検査法の実践度	1.43	3.40

九州大学実践臨床心理学専攻 分析項目Ⅱ

理解度 4.0 以上の心理検査法数	7	13
実践度 4.0 以上の心理療法数	0	9

○資料 37 心理療法の理解度・実践度（平成 25 年度修了生）（15 心理療法の 7 件法）

	入学時	修了時
心理療法の理解度	3.36	3.77
心理療法の実践度	1.43	2.73
理解度 4.0 以上の心理療法数	2	7
実践度 4.0 以上の心理療法数	0	4

3) その他学生の評価を聴取する機会

平成 26 年度に臨床心理分野専門職大学院の認証評価を受審した際、公益財団法人日本臨床協会資格認定協会による学生への意見聴取が行われ、「目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像などに照らして、教育の成果や効果が上がっていること」の評価基準において、学生の満足度が高かったことが「臨床心理分野専門職大学院 平成 26 年度認証評価報告書」（平成 27 年 3 月 27 日）に記載されている。

2-1-(2)-② 分析のまとめ

以上のように、在学中や修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果は総合的に見て良好である。本専攻では、学生の学業の進展状況の調査やカリキュラム等への満足度等を把握するために、入学時、進級時、修了時にディベロップメント調査を行い、教育の成果の確認や教育改善のためのデータとして活用している。本調査の結果、学生のカリキュラムと実習についての満足度は高く、臨床心理の専門的技術である心理検査法や心理療法についての理解度、実践度も伸びている。

これらのことから総合的に判断すると学習成果が上がっていると評価できる。

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

単位修得状況や退学率、修了までに要する年数、学位授与状況、全国平均を大きく上回る「臨床心理士」資格試験の合格率、及び学生の意見聴取等から判断して、本専攻が提供しているカリキュラムの満足度は高く、専門的な技術の向上も認められる。

これらのことから、教育の成果は良好であり、関係者の期待を上回っていると判断される。

観点 2-2 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

2-2-(1) 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

2-2-(1)-① 進路の全般的な状況

進路の全般的な状況は、資料 38 のとおりである。

○資料 38 進路の状況

修了年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
大学院博士後期課程	2	9	3	7	9
就職	10	19	24	17	15
その他	16	3	2	4	3
計	28	31	29	28	27

進学者のほとんどは本学大学院人間環境学府人間共生システム専攻臨床心理指導・研究コースの博士後期課程に進学している。専門職学位課程で高度な臨床実践力を身に付けた上で、さらに臨床実践の指導力や実践的臨床心理研究を含む幅広い研究力を身に付け、臨床心理分野をリードする人材となっている（資料 39、40）。

○資料 39 進学率（専門職学位課程から博士後期課程への進学）

データ種別	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
大学院進学者数	3	9	3	7	9
学内進学者数	1	8	3	7	9
学外進学者数	2	1	0	0	0
卒業・修了者数	28	31	29	28	27
大学院進学率	10.7%	29.0%	10.3%	25.0%	33.3%

出典：卒業修了生進路調査

○資料 40 学外進学先

年度	学外進学先
22	同志社大学大学院、富山大学医学部
23	長崎大学大学院教育学研究科

就職者のほとんどが臨床心理の 3 大領域である医療・保健、福祉、教育領域、さらに司法・矯正領域に臨床心理専門職として就職しており、高度な専門職業人を育成する目的を達成している（資料 41、42）。

○資料 41 就職希望者の就職率

データ種別	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
就職者数	7	11	13	16	15
就職希望者数	8	13	16	18	17
就職率	87.5%	84.6%	81.3%	88.9%	88.2%

出典：卒業修了生進路調査

○資料 42 就職先

年度	企業名
22	福岡市子ども総合相談センター、福岡市社会福祉事業団、福岡市教育委員会、福岡市、熊本市子ども未来局子ども育成部子ども発達支援センター、福岡県庁、大村共立病院、九州労災病院、社会福祉法人洗心合会、めばえ学園
23	財団法人福岡労働衛生研究所、福岡市社会福祉事業団、江東区こども発達センター、熊本市役

九州大学実践臨床心理学専攻 分析項目Ⅱ

	所、山元記念病院、熊本市子ども発達支援センター、河南町役場、荒尾こころの郷病院、向陽台病院、福津市役所、五島市役所、堀川病院、聖ルチア病院、ちひろ心クリニック
24	南部子ども福祉センター、響クリニック、子ども教育支援財団、医療法人信和会城ヶ崎病院、社会福祉法人聖小崎ホーム、独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院、スタンダードカンパニー、福岡市中心身障がい福祉センター、家庭裁判所調査官補、株式会社東芝、医療法人天臣会松尾病院、直方中村病院、虹と海のホスピタル、北九州市、やまと更生センター
25	八王子市教育センター、滋賀県庁、島根県職員、スクールカウンセラー、福岡市職員、朝倉記念病院、名古屋市職員、さいたま家庭裁判所、広島工業大学高等学校通信制、肥前精神医療センター、本学こころとそだちの相談室、山元記念病院、福岡市スクールカウンセラー、本学病院
26	聖ルチア病院、社会福祉法人黒潮会、可也病院、福岡市（心理職）、福岡市社会福祉事業団（2名）、弓削病院、古賀市（心理職）、社会福祉法人宰府福祉会、朝倉記念病院、糸島市（心理職）、大牟田市児童相談所、九州大谷短期大学、大田区立教育センター、小倉医療センター

2-2-(1)-② その他の卒業・修了生の活動の状況

1) 論文の投稿状況

本専攻の修了生は、専門職学位課程において高度な臨床実践力を身に付け、さらに博士後期課程において実践的臨床心理研究を含む幅広い研究力を培い、学会発表や論文を投稿し学位を取得した者もあり、臨床心理分野をリードする活躍をしている（資料43）。

○資料43 修了生の研究業績（平成22年度～平成27年度）

審査付学術誌の原著論文（査読有）投稿数	論文（紀要等）（査読無）投稿数	学術的著書等出版数	学会等における発表数
38	30	9	73

2) 新聞等で取り上げられる修了生

東日本大震災の被災者の心の支援活動「ほっとひろば九大」には、修了生も参加し、災害支援における臨床心理学分野の先駆的取組として新聞等で報道され、社会的に高い評価を得た（前掲資料32、19頁）。

2-2-(1)-③ 分析のまとめ

進路・就職状況等から判断される在学中の学業の成果の状況は、総合的に見て良好である。特に、就職者の就職先は、全て臨床心理専門職への就業であり、「種々の臨床心理現場に即応できる臨床心理分野の高度専門職業人の育成」という本専攻の教育目的を充分達成している。

進学者は、専門職学位課程において、高度な臨床実践力を身に付けた上で博士後期課程に進み、さらに臨床実践の指導力や実践的臨床心理研究を含む幅広い研究力を身に付け、臨床心理分野をリードする人材となっている。

その他、東日本大震災の被災者の方々への支援を即座に開始する等、臨床心理学の高度専門職業人として社会に貢献しようという意識も高い。

上記の進路・就職状況等を踏まえて総合的に判断すると、本専攻の教育目的に照らして、教育の成果や効果が上がっていると評価できる。

2-2-(2) 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果**2-2-(2)-① 卒業・修了生に対する意見聴取の結果**

修了時のディベロップメント調査による意見聴取の結果からは、専攻で提供しているカリキュラムの満足度は高く、専門的な技術の向上も認められる等、教育の成果や効果は上がっている（資料 35～37、20～21 頁）。

2-2-(2)-② 就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取

進学先や就職先等の関係者（病院長、児童養護施設長等）からの意見聴取によると、専門的知識、幅広い教養、基礎知識、チーム力、責任感、リーダーシップ、実務能力、表現・コミュニケーション能力についての評価が高い。

2-2-(2)-③ 分析のまとめ

修了生の進学先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果は、総合的にみて良好である。特に修了生へのディベロップメント調査の結果では、カリキュラム及び実習に対する満足度はかなり高い。

進学先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果、専門的知識、幅広い教養、基礎知識、チーム力、責任感、リーダーシップ、実務能力、表現・コミュニケーション能力についての評価は高い。

上記の分析結果を踏まえて総合的に判断すると、学習成果が上がっていると評価できる。

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

修了生の進路については、博士後期課程に進学したり、就職者のほとんどが臨床心理専門職に就いており、高度な専門性を有した人材を社会に送り出し、社会に貢献していると言える。

また、修了生や、修了生の就職先関係者からの意見聴取の結果は良好で、教育の成果が社会において有効に活用されている。

以上の状況を踏まえて総合的に判断すると、本専攻の教育目的に照らして、教育の成果は関係者の期待を上回っていると判断される。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

該当無し

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

該当無し